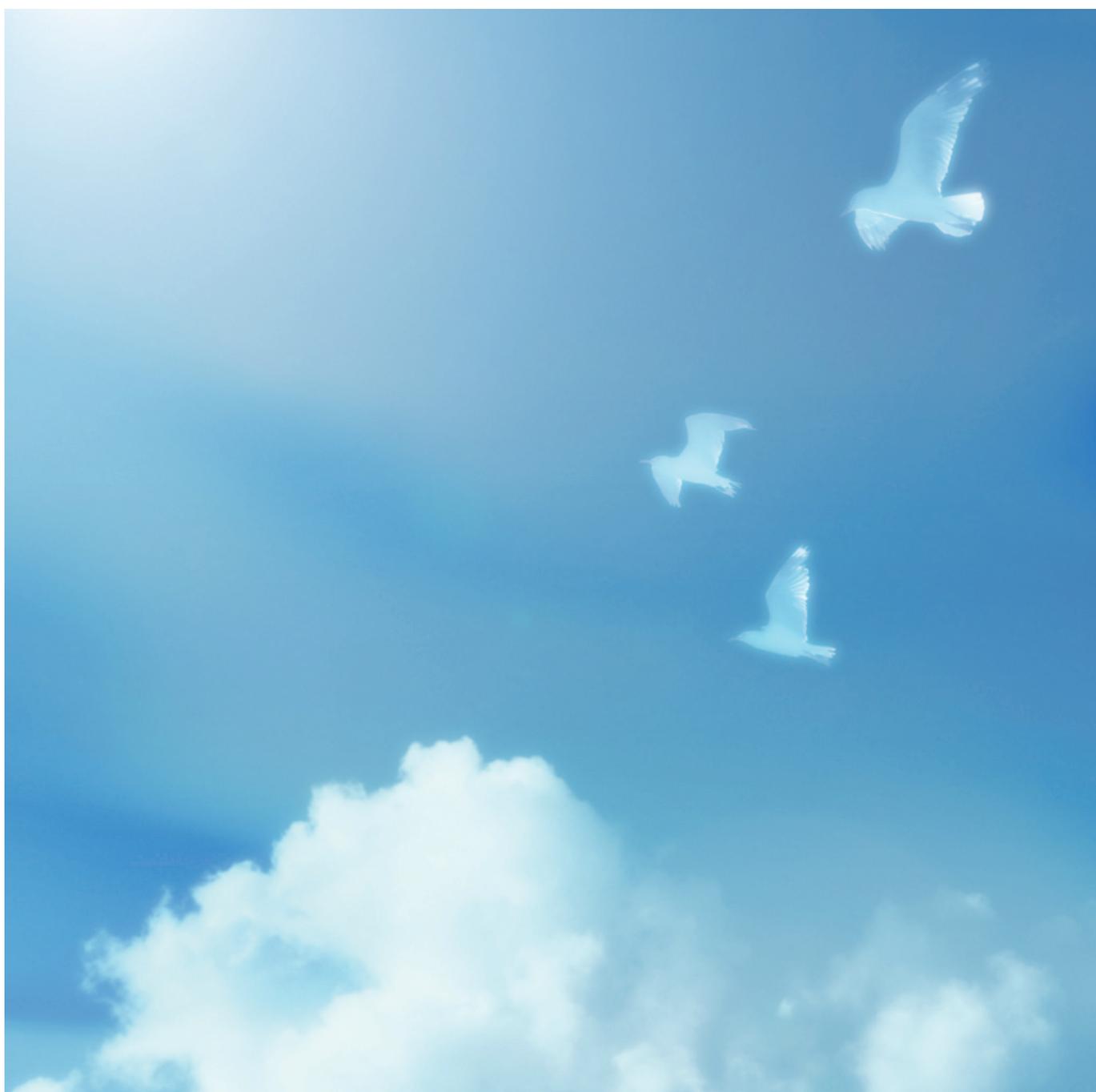


岡山市教育大綱



平成29年2月

はじめに

教育は、人づくりを通じてより良い明日の世界を目指す実践であり、伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、自らの人生を切り拓き、より良い社会づくりに貢献することのできる人を育成することが大切です。

岡山市では、教育基本法が掲げる「人格の完成」を目指し、一人一人の子どもが、知・徳・体の調和のとれた、自立に向かって成長する子どもに育つことを願って、市民協働で取り組んでいるところですが、全国的な調査結果から、子どもの学力、問題行動等には大きな課題があります。

学力の面では、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果を都道府県の順位に当てはめると、45位以下となる教科が見られます。問題行動等の面でも、中学校における暴力行為の発生件数は未だ全国平均の約2倍であり、小学校における不登校の出現率も全国平均を上回る状態が続いています。

これらの結果は、教育委員会や学校はもとより、岡山市としてのこれまでの取組が十分でなかったことを示しており、子どもたちに対する責任を果たしていないと言わざるをえません。

この現状を、打破したい。

岡山市の子どもたちが、世界で活躍する素地を育み、岡山市の学校に通ったことを誇りに思える、そんな学校教育、学校風土に変革していかなければいけない。

教育委員会が強いリーダーシップを発揮し、全ての学校、教職員が目標達成に向けて、一丸となって取り組んでいかななくてはならない。

こうした思いを私と教育長、教育委員が共有し、これからの岡山市の教育に必要なことは何か、何をすべきか、総合教育会議の場で議論を重ね、練り上げたのが、この「岡山市教育大綱」です。

本大綱に沿って、岡山市を挙げて学校教育の変革にチャレンジしてまいります。また、本大綱では、喫緊の課題である学力の向上と問題行動等の防止及び解決を目標に掲げましたが、支援や配慮を必要とする子どもへの教育と福祉とが連携した支援の充実をはじめ、幅広い教育課題についても今後、総合教育会議で協議しながら、子どもたちのよりよい成長に資する取組に力を尽くしてまいります。

岡山市長 大森雅夫

郷土の先人・犬養木堂は、「教育は国家百年の大計」という表現のもととなった、中国春秋時代の管子のことば「終身の計は人を樹うるに如くは莫し」を引いて、『樹人』という書を遺されました。

まちづくりは人づくり、人づくりはまちづくりです。百年先を見据え、教育を通じて、未来の郷土、ひいては世界の発展の基礎を築いていくことが岡山市の使命であり、先人の教えを胸に刻み、社会全体「オール岡山市」で人づくりに力を注ぎます。



岡山市がめざす教育

『樹人』 明日の世界に雄飛する人を樹うる

「『樹人』明日の世界に雄飛する人を樹うる」の実現に向けて、まずは岡山市の教育の現状と課題を真摯に受け止め、平成29年度から平成32年度までの4年間における施策の目標を「学力の向上」と「問題行動等の防止及び解決」とし、教育委員会と市がしっかりとスクラムを組み合わせながら、強い決意を持って、この2つの目標の達成を目指します。

目標1

学力の向上

競い合う、
高め合う

目標2

問題行動等の 防止及び解決

認め合う、
共に生きる

また、今後における総合教育会議での協議を踏まえ、新たに施策の目標や方針を設定するなど、必要に応じて大綱の見直しを行います。

目標1 学力の向上

現状と課題 「全国学力・学習状況調査」の結果から

■ 教科に関する調査については、小学校では改善してきていますが、中学校では全国平均を下回る状態が続いています。

■ 教科に関する調査における無解答の割合が、小学校、中学校ともに、全国平均を上回っています。

◎B問題（主として「活用」に関する問題）の偏差値の推移

	小6・国語	小6・算数	中3・国語	中3・数学
H25	49	50	50	50
H26	50	50	48	48
H27	50	50	48	48
H28	50(23)	50(11)	48(47)	48(45)

※H28の（ ）内の数字は、仮に正答率を都道府県の順位に当てはめた場合の位置

◎B問題の無解答率（H28）

教科	岡山市	全国
小6・国語	5.0%	4.6%
小6・算数	8.2%	7.4%
中3・国語	7.4%	4.4%
中3・数学	19.0%	14.7%

教育委員会や学校は、子どもたちの日頃の学習の状況や活動の様子を重視しており、全国学力・学習状況調査の結果の活用が不十分であった。

教員や子どもたちの全国学力・学習状況調査に取り組む意識を高め、その結果を効果的に活用し、学力向上に向けた取組にいかしていく必要がある。

■ 組織的な授業研究等の取組の実施率や校長が校内の授業を週2回以上見て回っている割合が、中学校で全国平均を下回っています。

◎授業研究等の状況（H28・中学校）

項目	岡山市	全国
模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている。	63.2%	84.2%
校長が校内の授業を週2回以上見て回っている。	65.8%	82.6%

教員が互いに授業を見合う教え合うという機会が不足していた。特に、中学校では、生徒指導や部活動の指導に追われ、組織的な研究を進めにくかった。

授業改善に向けた取組が効果的に行われるような仕組みづくり、場づくりを行っていく必要がある。

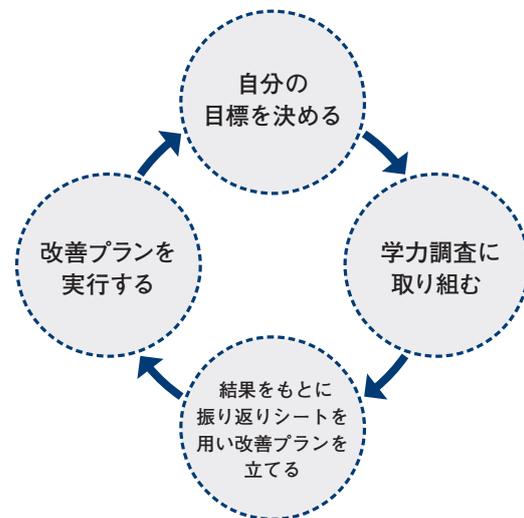
取組の方向性 | 変革と挑戦

教育委員会の強いリーダーシップの下、校長を中心として、組織的かつ実践的な授業研究を行い、授業改善を進めます。

教育委員会	学校
教育長自らが先頭に立って教育委員会を挙げて、全学校を学期に1回以上訪問	授業改善をテーマにした校内研修の回数・内容等を示した研修計画を作成
各学校の授業改善の状況を確認、指導及び助言を実施	計画に沿って公開授業や研究協議等を実施
	校長は、校内の教員の授業を週2回以上参観、授業改善に向けた指導及び助言を実施

学力調査等の結果を効果的に活用し、子ども一人一人の学力向上を図ります。

教育委員会
岡山市独自の学力調査（学力アセス）を実施
学力アセスと全国学力・学習状況調査を関連付けた「子ども一人一人の学力向上PDCAサイクル」を確立
学校
「子ども一人一人の学力向上PDCAサイクル」が機能するよう、振り返りシート等を用い指導
全国学力・学習状況調査の質問紙調査において課題が見られた項目について、目標値を定めて、その改善に向けた取組を実施



子ども一人一人の
学力向上PDCAサイクル

目標値 (H32)

■全国学力・学習状況調査の偏差値が、小学校51、中学校50となることを目指します。

目標2 問題行動等の防止及び解決

現状と課題

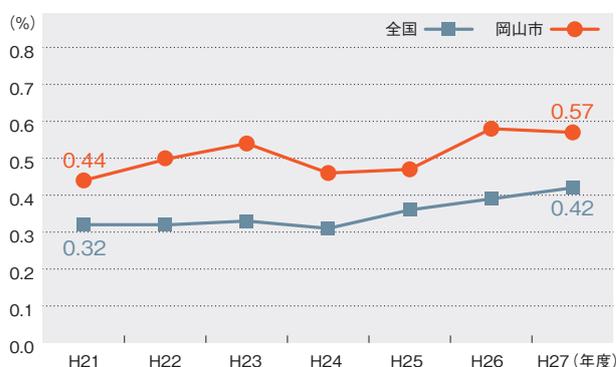
「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」から

- 暴力行為の発生件数は、中学校で減少傾向にあります。依然、全国平均を上回る状態が続いています。
- 不登校の出現率は小学校で全国平均を上回る状態が続いています。
- いじめの解消率は小学校、中学校ともに95%を上回る状態が続いています。

◎生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数の推移(中学校)



◎不登校児童の出現率の推移(小学校)



改善が進んでいるもの

- ◎学級への適応感などを測る質問紙調査の活用により、安心して学べる学級集団づくりが進んだ。
- ◎警察との協働による非行防止教室の実施等により、規範意識が向上した。
- ◎専門職員を学校に配置し、問題行動等に対する支援体制づくりが進んだ。
 - ・スクールカウンセラー 38校(H22)→74校(H28)
 - ・不登校児童生徒支援員68校(H22)→86校(H28)
- ◎内容に特化した相談窓口の設置により、学校の対応力が向上した。
 - ・特別支援教育相談窓口(H22～)
 - ・学校問題相談窓口(H24～)
 - ・いじめ専用ダイヤル(H26～)

中学校の暴力行為の発生件数が5年で半減するなどの成果が上がっている。

問題行動等の未然防止に向けて、効果のあった取組を引き続き推進していく必要がある。

課題が残っているもの

- ◎問題行動等への対応や未然防止に関して、次の点において学校間で取組に差があった。

- ・原因や背景の分析
- ・児童生徒の実態把握
- ・校内体制の構築
- ・保護者との意思疎通
- ・専門家の活用
- ・地域や関係機関との協働

暴力行為が繰り返し発生する学校や、新たな不登校児童が複数現れる学校が見られる。

- ・暴力行為が年間10件以上発生した中学校 9校/38校(H27)
- ・新たな不登校児童が2人以上現れた小学校 39校/91校(H27)

市全体で課題を共有し、全ての学校で未然防止・早期解決に取り組む必要がある。

取組の方向性 | 変革と挑戦

全ての学校で、問題行動等の未然防止・早期解決に向けたさらなる対応力の向上に取り組めます。

教育委員会	学校
<p>教育長自らが先頭に立って教育委員会を挙げて、全学校を学期に1回以上訪問し、問題行動等の実態や対応状況を把握</p>	<p>校長は、学校が定めた問題行動等の防止に関する基本方針を毎年見直すとともに、各年度の重点目標を策定し、年度初めに子ども、保護者、教職員に提示</p>
<p>各学校の実態把握の結果に応じて、実際の事例について検討するケース会議での指導及び助言や、研修会への講師の派遣を実施</p>	<p>年3回以上、研修会またはケース会議を開催 【研修会の内容例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「質問紙調査を活用した問題行動等の未然防止」 ・「暴力的な児童生徒の特性の理解と効果的な支援」 ・「不登校支援における関係機関との効果的な協働」

全ての学校で、道徳教育や学級活動の充実、保護者や地域の方との協働を進め、子どもたちの居場所づくりや規範意識の向上に努めます。

教育委員会	学校
<p>目的達成に向けて効果があった学校の取組とその成果を子どもたちや市民に対して周知し、全ての学校・地域における活動の活性化を促進</p>	<p>善悪の判断や思いやりの気持ちを学ぶ道徳の授業や、警察と協働した非行防止教室等を全ての子どもを対象に実施</p>
<p>【取組例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スマートフォンやゲーム機の適切な利用による、家庭での学習時間の確保」 ・「あいさつ運動や目安箱の設置等による、いじめのない学校づくり」 ・「生徒会と育成協議会の協働による、ゴミや落書きのない街づくり」 	<p>全ての学級で、自分たちが守るべきルールについて話し合う活動を実施</p> <p>全ての学級で、学級の一員であるという意識を高める活動を実施</p>
	<p>PTAや青少年育成協議会等と協働して、年1回以上、保護者や地域の方を対象にした問題行動等の理解や未然防止に関する研修会、または清掃活動など、子どもと大人と一緒に活動できる行事等を開催</p>

目標値 (H32)

- 中学校の生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数が、平成27年度の全国平均(9.5件)以下となることを目指します。
- 小学校の不登校の出現率が、平成27年度の全国平均(0.42)以下となることを目指します。

施策の実施に当たっての環境整備

学力の向上、問題行動等の防止及び解決に向けた施策を確実に実施していくための環境整備を行います。

教職員がいきいきと子どもの指導に当たるための 教職員の働き方についての意識改革

- ◎校長は、部活動の週1日以上、休養日や教職員の定時退校日を設定することなどにより、教職員が教材研究や研修等を行う時間を確保するとともに、教職員のワークライフバランスの実現に取り組みます。
- ◎教育委員会は、各学校の取組の状況を把握し、その徹底を図ります。

実践的な研修の実施等による 学校のマネジメント能力を身に付けた教員の育成

- ◎教育委員会は、中堅教員を対象とした「総合的ミドルリーダー研修」を新規に開講します。

教員の新たな再任用制度の導入や 学生ボランティアの活用による学校の教育力の向上

- ◎退職した教員が、再任用教員として、それまでの経験をいかして習熟度別サポーター、学校業務アシスト職員等の職務を担うことで、様々な教育課題への対応を行います。
- ◎教育委員会は、学生ボランティアのグループ化を図り、授業や放課後の学習支援を組織的にを行います。

社会全体で子どもを育む意識の醸成

- ◎教育委員会は、岡山市地域協働学校（コミュニティ・スクール）の指定を進め、家庭・学校・地域社会・事業者が協働し、社会全体で子どもを育む取組の充実を図ります。

施策の実現に向けて

教育委員会は、教育長を先頭に強いリーダーシップを発揮し、本大綱に掲げる施策に取り組みます。市長は、教育委員会及び学校の取組状況について毎年度報告を求め、総合教育会議において検証・協議します。